

H-IIA F26

平成26年11月30日(12月1日)・種子島宇宙センター
記者・赤羽大太

「はやぶさ2」打ち上げ取材

宇宙新聞

宇宙時代の地球人を育てる

CYAC

日本宇宙少年団

スケジュール

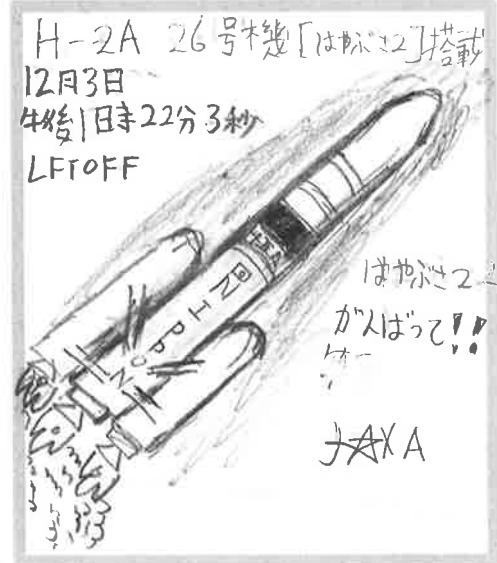
[1日目] この一日は、種子島に早く打ち上げが延期になつたりと、とたばなか多くてした。

この日の中でも、乗組員に残っているのは、リーダーが言つて、いたぐらで、まるで樂しそうと云ふことです。

私は、このおまきを開けて、ぐらぐらと乗組して、うどみくこととおりであつて、空虚でした。

[2日目] 今日は、天候が悪く、飛行機、でも、もう、船は最初に出港し、なります。やがて、よく出港できました。天候も良くなりました。飛行機では、べんりサインが消えました。また、飛行機では、べんりサインが消えました。いつもながらと、また、羽田空港に無事、どちらで、まことにあります。

えびの白物と言ふ場所で、コクリットの打ち上げ施設をよく見ます。かんづかんで、打ち上げを見つけることができました。あれで、打ち上げとても残念でした。



【まとめ】私は、はやぶさ2が帰還してから、宇宙が移り、その後、継続であるはやぶさ2の打ち上げを貢献して、これまでの取材に応募をして、当選しました。まだもう少し、はやぶさ2の運航に注目する予定まで、印をつける日々の打ち上げが終了となり、メールに書いてあるのを見たときは、さすがに、それが打ち上げ日程が決まりました。ロケットの打ち上げを見て、自分が、かっこいいと、もう、来しかったです。そして、種子島に行つたら、一度目の打ち上げが延期が分かったとき、もう、さりげなく、泣き声で泣きました。

でも、ロケットが三回目の延期が打ち上げても、とてももう、いい気持ちをもつて、種子島は、また、打ち上げを見る事ができました。人が、打ち上げる木立てても、もう、えい、たです。はやぶさは、帰還した時に、古くまの人か、宇宙を好きになると、うなづいています。はやぶさも、絶体に地球に帰つてしまつた、または、点火した後して、天候がとても悪くなりました。しかし、と、また、羽田空港に無事、どちらで、まことにあります。

はやぶさ2のプロジェクトチームのみなさんは、ややぶさ2が、ようしくなつた、応援します。

はやぶさ2、無事に帰還して、ます。い、願ります。